

2019年度（第16期）事業報告

（2019年4月1日から2020年3月31日まで）

特定非営利活動法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会
報告者 プロジェクト統括責任者 三浦 照男

はじめに

今期より、民間団体から助成金が得られてモリंगा関連事業と手工芸品・縫製事業を強化することができた。また、外務省日本NGO連携無償資金協力で大豆関連事業が採択され、3月から開始した。農村開発事業では有機農業組合、農村女性の手工芸品・縫製事業の自立のための支援に力点を置いたことで事業収益が上がり、持続可能な活動を目指す上で重要な節目となった。大過なく事業が成されたことに感謝し、国内外の多くの支援者、協力者に感謝を申し上げたい。

I. 特定非営利活動に係る事業

1. 農村開発・農業開発支援事業

1-1 貧困農民のための収入向上活動事業

- アラハバード有機農業組合の有機野菜・日本米の栽培、加工食品(味噌、醤油、乾燥キノコ、乾燥モリंगा等)の質の向上と販路拡大の協力支援を行った。ビジネスの拡大の様相があり、食品加工の機械化、商取引に精通したスタッフの必要性を痛感した。
- 農村女性による現地 NGO アーシャ ビカス セワ サミティ (AVSS) の保健部門の自立のため、モリंगाの加工・販売、及び Green Café 運営の支援を行った。
- AVSS の縫製部門アーシャ ビカス シャクティ (AVS) が製作する手工芸品のデザインと販売の支援を行った。新商品が増えてインドの売上は18%増加したが、日本向けは微増に止まった。

1-2 アーシャ農村学校及び持続可能な農村開発研修センターの効果的な活用

アーシャ農村学校マエダ校においてインターンシップ研修に参加した日本人大学生と同校生徒や教師との交流会、農村女性の裁縫教室などを実施するための協力・助言を行った。

2. 人材育成支援事業

2-1. 持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上

インド・メガラヤ州より男子1名、女子1名、ミャンマーより男子2名が入学し、9か月の農村開発研修を修了した。卒業後は全員、それぞれの地域に戻り、活動を続けている。

2-2. 僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業

政府の学校認可に対する規制が厳しくなり、アーシャ学校マエダ校1校のみの支援となった。生徒70名に対し、1人当たり25ルピーを奨学金として供与した。

2-3. 裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援

アジア生協協力基金「北インド農村女性の自立支援のための手工芸品マーケティングシステムの確立と生産・技術能力向上事業」を開始した。プロフェッショナル研修に農村女性8名が参加し、日本人専門家より縫製技術の改善、デザイン開発の指導を受け、多くの新商品を製作できるようになった。

2-4. 農村保健衛生改善支援事業

味の素ファンデーション「北インドと日本をつなぐ食を通じた栄養改善プロジェクト」を開始した。保健ボランティアと協働して、農村女性が共同でモリンガ栽培、モリンガ粉末の加工・販売を行う活動を推進した。保健専門家の指導によりモリンガ粉末の加工工程の効率と品質が改善した。

2-5. 農村女性所得創出・地位向上支援事業

外務省日本NGO連携無償資金協力事業「大豆の栽培・加工を通じた農村女性の所得創出」を3月より開始した。農村女性による大豆栽培、大豆加工食品の製造・販売を立ち上げるため、活動を推進する農村普及ボランティアの育成、事業地に適した大豆の品種を調べる栽培を始めた。

3. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業

3-1. ワークキャンプ・スタディツアー、訪問者受入

インターンシップ研修プログラム（9月1日～14日）を開催し、日本人大学生11名が参加した。農村開発、食品加工、農産物販売等の研修を実施し、多くの学びを得たと感謝の意が表された。スタディツアー（3月1日～10日）は、新型コロナウイルス感染拡大により急遽中止した。

3-2. 会報の発行

アーシャの活動及びマキノスクールのプロジェクト活動を紹介する会報「アーシャ」を年3回（4月、8月、12月）発行し、会員及び支援者に理解を深めていただいた。

3-3. ホームページ等での広報

アーシャの活動内容を広く一般の方々に知っていただくため、ホームページの更新を行った。

3-4. 日本国内における学生・市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、参加

代表理事、副代表理事、SCSAD卒業生などが講師、報告者となり、講演、報告会を12回実施した。

3-5. 次期事業形成調査

外務省日本NGO連携無償資金協力で農村住民の栄養改善と農村女性の地位向上を目指す大豆事業を申請し、採択されて3月より事業が開始された。

4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業

災害や紛争など発生しなかったため、行われなかった。

II. その他の事業

1. バザー・チャリティ・販売事業

日本ではバザー、フェアトレード関連行事、セミナーなどに出店し、モリンガパウダー、手工芸品の販売を行うとともに、当会活動の認知度向上に努めた。また、東京と栃木のセレクトショップにおける販売拡充に努め、自然食品店などの販売先も開拓できた。ホームページでの通信販売、SNS を利用した商品紹介を継続した。

インドではデリーのイベントやバザーなどで AOAC、AVSS の日本米、日本食材（味噌、醤油など）、モリンガパウダー、手工芸品の販売を支援し、当会活動の認知度向上に努めた。

2. 食品加工事業

9月より日本で食品加工事業を開始し、インドから輸入したモリンガ粉末を小分けしてシーリングし、ラベルを貼付する加工作業を行った。また、モリンガ粉末とヒマラヤ岩塩の粉末をブレンドしたモリンガ塩の加工作業を行った。

3. 演奏会、展示会、図書出版等の文化事業

栃木県においてアーシャ学校の生徒の絵画やアーシャの活動風景の写真の展示会を行った。

IV. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1. 農村開発・農業開発支援事業	持続可能な農業・農村開発・収入向上事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	農村住民 30万人	906
2. 人材育成支援事業	①持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	研修生4名、彼らの活動地(インド、ミャンマー)の農村住民各1,000人	626
	②僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	2名	農村児童 100人	93
	③裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	農村女性 1,000人	938
	④農村保健衛生・健康栄養改善支援事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	6名	農村住民 60万人	3,004
	⑤農村女性所得創出・地位向上支援事業	1月以降	インド・プラヤグラージ地区	7名	農村住民 60万人	0
3. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業	①インターンシップ研修及びワークキャンプ・研修ツアー・訪問者受入	随時	日本	7名	日本 300人	623
	②会報の発行・広報・セミナー	年3回	日本、インド	7名	日本、インド 延べ1000人	171
	③次期事業形成調査	随時	日本、インド	2名	日本、インド	347
4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業	緊急支援活動事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	0

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	事業費の金額(千円)
1. バザー・チャリティ販売事業	出店販売、委託販売、通信販売、市場調査	随時	日本、インド	7名	841
2. 食品加工事業	モリンガパウダー、ヒマラヤ岩塩、モリンガ塩の小分け包装	9月以降	日本	2名	204
3. 演奏会、展示会、図書出版等の文化事業	絵画・写真展	随時	日本	3名	12